

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management



## 【小川原湖とシジミ漁（青森県）】

写真は、小川原湖の東岸から西岸方向を撮影したものです。遠くには、湖を涵養する八甲田連峰が広がっています。小川原湖は上層の塩分が非常に薄い微汽水湖であり、現在も希少で多様な生態系が保全されています。また、シジミ漁が盛んであり、伝統的なジョレンで採取し全国有数の漁獲量を誇っています。

その小川原湖も近年は水質の悪化が進行し、地元の重要な産業の1つである漁業へも大きな影響が出ています。河川環境管理財団では、国土交通省からの業務で平成20年からこの現状を把握して水質悪化要因を検討し、今後の水質改善のために重要な施策の検討を行っています。

## ニュースの項目

### 【巻頭言】…………… P2

河川環境管理財団 理事長 鈴木藤一郎

### 【特集 日本全国湖沼での水草（沈水植物）再生および利活用の取り組み状況の調査研究】…………… P3

1. 経緯
2. 研究目的と方法
3. 研究成果の概要
4. 具体的な事例
5. 今後の展開

### 【報告事項1 調査研究等】…………… P5

1. 「河道特性に及ぼす粘性土・軟岩の影響と河川技術」～河川管理上の新たな課題の解決に向けて～ を発行しました
2. 「河川環境研究所報告 第16号」の発行
3. 平成22年度河川美化・緑化調査研究助成案件の選定
4. 河川環境研究会の開催
5. 第5回アジア太平洋水文水資源協会国際会議（APHW2010）参加

### 6. 「河川環境管理財団研究発表会（地方開催）」…………… P8

### 7. 第29回川の写真コンクール…………… P8

### 【報告事項2 河川環境学習関係】…………… P8

1. 「第9回 プロジェクトWET ファシリテーター講習会」を開催
2. 「第10回 川に学ぶ体験活動全国大会 in かごんま」に参加
3. COP10 発表・交流事業「地球いきものEXPO in モリコロパーク」に出典
4. 平成22年度かっぱ天国大募集の応募及び受賞結果
5. プロジェクトWET エducーター講習会 in 岐阜
6. E ボートで淀川下り！

### 【出版案内】…………… P11

1. 「川を活かした体験型学習プログラム」の発刊
2. 「水辺の安全ハンドブック(改訂版)」の発刊

### 【公園・施設管理コーナー】…………… P12

1. 第16回 淀川河川公園リレーマラソン大会

### 【河川整備基金コーナー】…………… P13

1. 「河川整備基金助成事業成果発表会」の開催
2. 「平成22年度河川整備基金助成事業優秀成果」を公表
3. 「平成23年度河川整備基金助成事業の申請受付」終了
4. 「河川技術者研修会(北海道地方、四国地方)」の開催

### 【お知らせ・募集】…………… P15

1. 「第10回プロジェクトWET ファシリテーター講習会」の開催予定
2. 「平成22年度 川に学ぶ全国事例発表会」の開催案内
3. 平成22年度 プロジェクトWET & ワイルド 合同全国大会
4. 「第9回(財)河川環境管理財団 研究発表会」のお知らせ

## 巻頭言

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、多くの皆様から当財団の事業活動に対して多大なご支援とご協力を賜りました。新年にあたり、役職員を代表して厚く御礼を申し上げます。

さて昨年は、公益法人に対する国民の目がより一層厳しさを増した年となりました。当財団においても、国土交通省からの受託事業である「河川関係の広報資料館（水辺共生体験館）の管理運営」を対象として事業仕分けが行われましたが、これ以外の事業が仕分けの俎上にあげられたわけではありません。しかしながら、近年の社会経済情勢が大きく変化している中、今後、当財団がどのような役割を担い、そのためにどのように業務を行っていくのかを含め、財団のあり方が問われており、これを真剣に検討し改めていく必要が生じているのも事実です。

もとより、当財団の役割が、「河川整備や河川の利用も含めた河川環境の保全・整備を推進していくための隘路となっている課題を抽出・解決し、それを政策提言や技術提案といった形で社会に還元すること」及び「国民の河川愛護思想の普及啓発を図るための諸施策を展開すること」に変わりはありません。問題は、この役割を如何にこれまで以上に効率的に果たしていくのかということです。

幸い、当財団では、調査研究のみならず、河川公園の管理運営、河川整備基金の運営といった他の公益法人や民間コンサルには見られない幅広い業務を

行っており、これらの経験を通じて培ったノウハウと全国の研究者や市民団体等とのネットワークが当財団の力の源となっています。今後は、課題を明確にし、その解決に向けてこれらの資源をこれまで以上に重点的に投入していく必要があります。



このような認識の下、今年はいよいよ一層改革のスピードを速めるべく、当財団の役割を果たしていくための大小様々な仕組みづくりに着手してまいります。一例を申し上げますれば、今年度、全国の研究者等の英知を結集させやすくするために、河川整備基金の運営に際して、概ね5年間で解決すべき課題等を明記した中期計画（仮称）を策定し、今後の助成に向けた募集要項に反映することを考えています。

今年、当財団を含めた公益法人を取り巻く環境はいよいよ一層厳しくなることが予想されますが、これをなお一層良質なサービスの提供に磨きをかけるチャンスと捉え、努力してまいりたいと考えております。

皆様の更なるご指導、ご鞭撻を心よりお願いして、新年の挨拶といたします。

財団法人河川環境管理財団 理事長

すずき とういちろう  
鈴木 藤一郎

## 特集

# 日本全国湖沼での水草(沈水植物)再生および利活用の取り組み状況の調査研究

## 1. 経緯

我が国の多くの湖沼では、流入する汚濁負荷量の増加による水質の悪化、特に透明度の低下と、湖岸の埋立等による開発、繁茂した水草対策として放流されたソウギョなどにより沈水植物が大きく衰退しました。

湖沼などに生育する沈水植物は、様々な機能を有していると考えられており、水生動物の産卵場・隠れ家・成育場としての機能に加えて、水質との関連では、底泥の巻き上げの抑制、植物プランクトンとの栄養塩の競合による植物プランクトンの増殖抑制、沈水植物が分泌するアレロパシ-物質（沈水植物が水中に放出するある種の化学物質）による植物プランクトンの増殖抑制などが指摘されています。

こうした機能に着目して、沈水植物を主とする水草を再生させることにより湖沼の水質の改善につなげられるのではという観点から、平成 20～21 年度に国土交通省河川局から受託した業務において霞ヶ浦、印旛沼、諏訪湖の事例などを基にして「自然の浄化力を活用した新たな水質改善手法に関する資料集」がとりまとめられています ([http://www.mlit.go.jp/river/shishin\\_guideline/index.html](http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/index.html))。

上記の資料集をさらに充実させるために、水草の再生に関してご指導をいただいている東京大学助教の西廣淳氏のご提案を受け、全国で実施されている多くの事例を収集し、比較検討することとしました。

## 2. 研究目的と方法

本研究の目的は、我が国の湖沼において、衰退した沈水植物の再生（保全を含む）の取り組みが行われている事例をより広く収集・分析し、沈水植物再生の取り組みの主要な課題と再生のための手法をとりまとめることです。その際、沈水植物が一定以上に繁茂することで障害が発生している事例もあることから、沈水植物の刈り取り及び肥料等としての利用状況についてもまとめることとしています。

研究は西廣助教のご助言及び公表情報等から調査対象となる湖沼を6箇所選定し、財団の職員が現地に出向いて、行政機関、学識者、NPO などの方々から情報収集を行うとともに、現地での調査を実施しました。これらの情報は関連情報と合わせて資料集としてまとめ、沈水植物再生の取り組みを実施している関係者と広く共有できればと考えています。

## 3. 研究成果の概要

現地での調査を通して沈水植物の再生に関して確認されたことは、湖底等に埋土種子が確保されていれば、隔離した水域等を設けることにより濁りを低減させて（風浪の低減で濁りが低減する）光量が一定の条件を満たすようにし、ザリガニやソウギョなどの捕食圧や抽水植物の侵入を防ぐことができれば沈水植物の再生を行うことが十分可能であるということです。

しかし実湖沼においてはこれらの条件を全て満たすのは容易ではありません。積極的に沈水植物の再生の取り組みが行われているにもかかわらず、その再生を困難にしている最も大きな要因は濁りと植食動物（ザリガニやソウギョなど）といえます。濁りについては、諏訪湖と東郷池のように下水道の整備とその処理水の系外放流により流入負荷を大きく減少させて透明度を回復させている事例があります。一方、植食動物についてはまだ効果的な対策を模索中という段階で、今後の進展が期待されます。

## 4. 具体的な事例

以下に、湖沼内で沈水植物の再生の取り組みを進めている2つの事例と、繁茂した沈水植物への対応を実施している2つの事例を紹介します。

### (1) 野尻湖（長野県）

昭和 50 年前後のカナダモの大発生を期に 53 年にソウギョが放流され、それにより 3 年間で水草は消滅しました。現在の湖岸にはヨシもほとんど生育していません。平成 7 年に長野県長野公害研究所（現 環境保全研究所）と野尻湖博物館（現 野尻湖ナウマンゾウ博物館）が野生絶滅車軸藻ホシツリモの野尻湖内での復元実験を開始しました。平成 8 年からは地域住民が参加した野尻湖水草復元研究会が設立され、ステンレスの籠や網で囲った復元区に毎年植栽して観察しています。この取り組みは、小学校の環境教育の一貫としても位置づけられています。現在、ソウギョの駆除も実施されており、復元区では沈水植物のヒルムシロや抽水植物が生育しています。

同じ県内にある木崎湖<sup>1</sup>では、最近沈水植物の回復が報告されており、ソウギョの捕食圧の低下によるものではないかと言われています。

<sup>1</sup>樋口澄男ほか（2005）：木崎湖における車軸藻類の分布（2001～2002）、長野県環境保全研究所研究報告





写真1 移植したホシツリモ（野尻湖南区）

※野尻湖水草復元研究会提供



写真3 刈り取った沈水植物の分別（東郷池）

## (2) 伊豆沼（宮城県）

昭和53年には約80haのクロモの群落が形成されていましたが、55年の大出水で水生植物が大きく変化し、沈水植物は衰退してハスとヒシの群落に推移しました。この大出水前の約80haのクロモの回復を目標に掲げて、まずはクロモの群落を形成する取り組みが行われており、クロモの残存区域近傍での植栽、水中光量を確保するための浮き生け簀の設置、湖外のため池で水位低下実験が行われています。



写真2 沈水植物移植区（伊豆沼）

## (3) 東郷池（鳥取県）

沈水植物は、昭和30年代までは湖面積の1/3を覆って船の航行障害を引き起こしていましたが、その後の水質悪化とともに大きく衰退し、平成以降、水質改善とともに回復しています<sup>2</sup>。平成18年～19年のシジミの出荷自粛も沈水植物が拡大した要因と考えられています。鳥取県・湯梨浜町役場・東郷湖漁業協同組合など多くの機関からなる「東郷湖の水質浄化を進める会」が、平成20年からホザキノフサモなどの沈水植物を5トン程度刈り取って、乾燥、肥料化する取り組みが継続されており、これは環境教育の一環としても位置づけられています。

<sup>2</sup>鳥取県生活環境部水・大気環境課（2008）：東郷池水質管理計画、平成20年3月

## (4) 琵琶湖

琵琶湖南湖では、平成6年の異常渇水以降、沈水植物が急速に分布域を拡大し、過去に見られなかったほど過剰に繁茂しています。これによって、航行障害・利水障害・悪臭・漁業への影響など様々な深刻な問題が顕在化しています。このために、滋賀県では、県自然環境保全課、県河港課などの機関が連携して専用船での刈り取りや貝曳き漁具での根こそぎ除去を実施し、その量は年間数千トンに及んでいます。刈り取った水草は、近年は仮置きをして乾燥させ、ゴミを除去して大半は水田などに搬入（農地還元）しています。



写真4 沈水植物の刈り取り・運搬（琵琶湖南湖）

## 5. 今後の展開

本研究の実施期間は、平成22年6月から23年3月を予定しています。そして、沈水植物の再生の課題と再生の有効な取り組み手法、過剰に繁茂した沈水植物の有効利用の手法を提言としてとりまとめます。

そして、本研究成果を同様な取り組みを実施している機関へ配布するとともに、より広く認識してもらえるように、学会等への論文として投稿していく予定です。

（担当：研究第二部）

## 報告事項 1 (調査研究等)

### 1. 「河道特性に及ぼす粘性土・軟岩の影響と河川技術」～河川管理上の新たな課題の解決に向けて～ を発行しました

沖積河川の技術は、河床が移動床であるという前提で組み立てられてきました。しかし、ここ 50 年、沖積河川は山地流域における治山・砂防事業、水資源開発事情などにより山地からの流送土砂が減少し、さらに 1960 年代から 1980 年代にかけての砂利採取により河床が低下し、河床に粘性土・軟岩が露出して移動床の河道とは言えない事例が増え、例えば高水計画や河道計画への影響、横断構造物(頭首工、床止めなど)や護岸の被災、生態環境の劣化など、河川管理上の種々の課題が生じてきています。

これまで、これらの課題に対する体系的な調査、研究がほとんど行われていませんでした。そこで当財団では、平成 21 および 22 年度前期の河川塾高等科の調査研究課題として、新たな取り組みにトライし、今回の『河道特性に及ぼす粘性土・軟岩の影響と河川技術 平成 22 年 11 月』(総ページ数 489、調査・検討河川数 13) をとりまとめたものです。(河川環境総合研究所資料第 29 号・2010.11)

本報告では、わが国の沖積河川での河床状況の実態を提示して問題点を整理するとともに、「河道変化の実態を把握する調査法」、「河道に露出する沖積粘性土・更新統・第三系などの粘性土・軟岩の物理・力学的特性」、「耐侵食力・侵食形態の特徴」、「河床変化のモニタリング法」についての既往・新規知見の集約・整理と「粘性土・軟岩露出河道の変動実態調査」を行い、粘性土・軟岩河道における河道計画および河川構造物設計・維持管理の考え方を提示しています。



写真 多摩川 43.2km 付近の軟岩の露出状況

(担当：研究第三部)

### 2. 「河川環境研究所報告 第16号」の発行

本報告書は、当財団の自主研究や受託業務の調査研究から得られた技術について、広く活用が期待される成果をとりまとめ、関係機関に配布しているものです。

本報告に掲載されている調査研究成果は以下のとおりです。本研究成果が関係の方々にも活用され、また現場の第一線における河川環境への取り組みに資することができれば幸いです。

#### 1. 河川環境の機構解明に関する研究

- 1) 過去からの変化傾向による河川の水温上昇が水質に与える影響に関する考察
- 2) 粘性土・軟岩の露出実態調査による侵食特性の把握と技術的課題
- 3) 淀川におけるワンドの整備とその課題
- 4) 小川原湖の水質悪化の状況とその原因に関する考察(中間報告)
- 5) 常時監視結果から見たダイオキシン類の挙動と発生源に関する考察

#### 2. 「川に学ぶ」社会の実現支援

- 1) 学校教育における河川環境教育の普及展開に関する研究
- 2) 「マイ・ハザードマップ」づくりを通じた川の防災教育
- 3) 体験施設における河川環境教育への取り組み  
～特に子供に対する導入教育にあたって～

#### 3. 管理システムの構築

- 1) 現場における効果的・効率的な維持管理手法の研究
- 2) 人為的インパクトにより河道が遷移しつつある河川の河道整備のあり方について  
～神流川をケーススタディとして～
- 3) 植物の生活史に着目した合理的な堤防植生管理  
～チガヤ優占堤防の実現に向けた取り組み～
- 4) 河川堤防及び河岸の効率的・効果的な点検手法等に関する考察 ～北海道の河川での実例を基に～

本報告書は、HP に PDF で掲載しています。なお、本報告書(A4、142 頁)を必要とされる方は、希望者の送料負担となりますが、企画調整部までご連絡下さい。

(担当：企画調整部)



### 3. 平成22年度河川美化・緑化調査 研究助成案件の選定

日本の国土を緑で美しくする運動のひとつとして、(社)ゴルファーの緑化促進協力会と連携して、河川美化・緑化事業に協力しているゴルフ場のある水系に、ゴルファーからの緑化協力を原資に植樹等を実施しています。

さらに、協力金の一部で、河川環境の美化緑化および保全に関する調査研究を行っています。河川美化・緑化調査研究の平成22年度助成については、去る12月2日、「平成22年度河川美化・緑化調査研究助成審査委員会」を開催し、応募総数22件のうち次の2件が選定されました。

○名古屋大学大学院准教授 戸田祐嗣

「河道内植生大規模伐採後の樹林再侵入メカニズムの解明と樹林化抑制手法の開発 ～天竜川下流域を対象として～」

○神戸大学大学院教授 伊藤一幸

「淀川水系の京都府木幡池における特定外来生物 ボタンウキクサの越冬調査とその防除」

(担当：企画調整部)

### 4. 河川環境研究会の開催

第15回の研究会は、平成22年11月17日(15:00～17:30)、独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター生態系影響評価研究室長の高村典子氏をお招きし、「危機に瀕する湖沼とため池の生物多様性－再生に向けての課題」と題してご講演をいただきました。

当財団内外含め約50名が参加しました。講演の主な内容は以下の3点です。

#### ① 2010年5月に生物多様性条約事務局から発表された

GBO-3(地球規模生物多様性概況第3版)の紹介

湖沼・河川・湿地・池など淡水生態系に棲む生物種の損失は、熱帯林のそれと並んで最も顕著である。世界のウエットランド(広義の湿地)は現在もお急速なスピードで減少し続けており、歯止めのかからない生物多様性の損失や生態系機能の劣化によりウエットランドの有する生態系サービスの更なる低下が危惧されている。こうした状況は日本でも同様である。

#### ② 釧路湿原東部湖沼の生態系の変遷

1992年から2008年の間に釧路湿原東部のシラルトコ湖・達古武湖で湖・沼の主要植生が沈水植物→アオコ→ヒシと変遷した。水質・生物調査の結果から、植生変遷に伴う生物種数の減少(生物多様性の喪失)とその原因について紹介があった。

#### ③ ため池の生態系

兵庫県西部地域のため池での生物調査の結果が紹介され、人の手が加わったため池の生物多様性が豊かなことがわかった。

上記の事例の紹介から、生物多様性の損失と生態系劣化の進行を止めるためには、生物多様性や生態系の評価手法を開発し、モニタリングに活かすこと、負の駆動要因を軽減する措置を講じることで、生物多様性や生態系の回復を予測し、効果的な保全を行なう必要があるとの提言があった。

1時間30分の講演後の質疑応答時間では、参加者からは多くの質問がありました。



また、第16回の研究会は、平成22年11月26日(15:00～17:30)、立命館大学総合理工学院工学部客員教授國松孝男氏をお招きし、「ノンポイント汚染と水環境保全の展開」と題してご講演をいただきました。

当財団内外含め約40名がご参加しました。講演の内容は以下のとおりです。

湖沼水質保全特別措置法(湖沼法、1984)制定から四半世紀が経過し、その間に下水道整備を主とする水環境保全にかかわる社会基盤や工場排水規制等の国・地方の社会システム・法律制度の整備などにより特定汚染源対策は飛躍的に進んだ。しかし、例えば指定湖沼(11湖沼)では、琵琶湖北湖・諏訪湖・野尻湖の全リンを除いた水質環境基準や窒素・リンの水質基準が未達成である。その重要な原因の一つとして非特定汚染源(ノンポイント汚染源)について従来の湖沼集水域における汚濁負荷の把握が不十分で有効な対策の実施が困難であったことが挙げられる。

このような状況から改正湖沼法(2005)では「流出水対策地区」を指定し、農地・市街地ノンポイント汚染対策を重点的に実施することとしており、ノンポイント汚染の正確な評価と有効な対策技術の開発・評価が重要課題になっている。

講演ではノンポイント汚染源の1つとして森林の多面的機能(水質浄化機能)に着目した研究が紹介された。

現状の森林原単位算定の問題点として①洪水流量が評価されていない②降水量の年間変動が考慮されていない③地質・地形・植生・森林管理等の流域特性との関係が不明、が挙げられる。これらの課題を解決するため、琵琶湖周辺の8箇所森林における降雨量、流出量、水質(TN・TP)の約10年間の測定結果から大気降下物量と森林から流出量(原単位)を算定し、両者の差から森林の物質収支を計算、ノンポイントの1つである森林の持つ浄化機能を検証した。この結果、TNについては大気降下物量が森林流出量を上回り、浄化に働き、TPについては大気降下物より森林流出量が上回り、汚濁に働くことがわかった。

1時間30分の講演後の質疑応答時間では、参加者からは多くの質問がありました。



(担当：研究第二部)

## 5. 第5回アジア太平洋水文水資源協会国際会議(APHW2010)参加

第5回アジア太平洋水文水資源協会国際会議がベトナム国・ハノイ市において、2010年11月8日～10日にかけて開催されました。

アジア太平洋水文水資源協会(APHW: The Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources)は、アジア太平洋地域の地理、気候に関連する枠組みの中で、水資源の管理と研究活動に関する知識と経験の交流を促進することを目的として2002年9月1日に設立されました。設立当時から2008年度までは虫明功臣先生が事務総長を務められ、現在は楠田哲也先生が事務総長として事務局の労をとられています。

これまでの開催は、2003年京都、2004年シンガポール、2006年タイ、2008年中国です。

今回の開催テーマは「気候変動の文脈における水文学と水資源管理」でした。アジア地域を中心に25の国と地域から215名の参加がありました。

今回の会議で当財団は、千葉県河川環境課及びパシフィックコンサルタンツ(株)と連名で論文「Restoration of Submerged Plants for Eco-system Rehabilitation in Lake Inba-numa 邦題：印旛沼の湖沼生態系修復に向けた沈水植物再生の取り組み」を提出し、研究第二部の中村がポスター発表を行いました。この論文は千葉県が印旛沼で取り組む沈水植物再生技術の現状と今後の方向性について論じたものです。

次回会議は、2013年8月に韓国にて開催されます。



(研究第二部)

## 6. 「河川環境管理財団研究発表会(地方開催)」

地域ニーズを踏まえた形で研究成果を広く周知するため、北海道事務所、名古屋事務所、および近畿事務所で研究発表会を開催しましたので報告します。

### 北海道事務所研究発表会

平成22年11月25日(木)、札幌エルプラザ 3階ホールにおいて、行政機関、研究機関、企業、NPO等から約150名の参加をいただき「第3回 河川環境管理財団北海道事務所研究発表会」を開催しました。

研究発表に先立ちNPO法人環境防災研究機構 北海道代表理事 藤間 聡 様から「市民と行政の連携～河川における連携のあり方」と題して講演をいただきました。

研究発表は、北海道地方に関連の深いテーマをプログラムとし、河川整備基金助成事業成果から2題及び財団の重点プロジェクト研究成果の中から3題の成果を発表しました。



(担当：北海道事務所)

### 名古屋事務所研究発表会

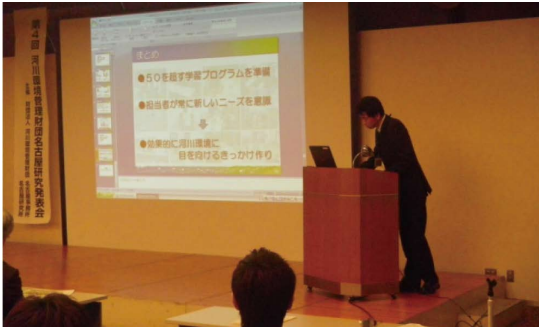
平成22年11月16日、名古屋市の栄ガスビル5階「ガスホール」において、中部地方整備局、自治体、教職員、建設コンサルタント、建設業等から110名の参加をいただき、第4回研究発表会を開催しました。

なお、研究発表に先立ち名古屋大学大学院教授 辻本哲郎先生より「河川生態系の構造・機能と生物多様性保



全」と題して講演をいただきました。

また、今回は河川整備基金の成果発表も合わせて行いました。



(担当：名古屋事務所)

### 近畿事務所研究発表会

平成 22 年 12 月 10 日（金）、大阪市中央区 OMM ビル 2F 会議室において、河川環境管理財団研究発表会（河川整備基金助成事業成果より 7 題、当財団研究発表 2 題）を開催しました。あわせて気象庁気象研究所気候部長鬼頭昭雄氏に「気候変動に伴う極端現象の将来変化」と題してご講演いただきました。

国、地方自治体、企業、研究機関、NPO 等から約 180 名のご参加をいただき、参加者から「淀川の成果を聴きにきた」「質疑応答で理解が深まった」「気候変動の最新の知見が得られた」などのご意見をいただきました。



(担当：近畿事務所)

## 7. 第29回川の写真コンクール

川の写真コンクールは、河川愛護の思想を広く一般の方々へ普及と啓発をするため、関東地方整備局と当財団が、河川愛護月間行事の一環として行っているものです。

関東 1 都 6 県と山梨、静岡県の小中高校生を対象として、川に関わる写真を広く募集したところ、今年度の作品応募総数は 8,103 点、多くの素晴らしい作品の中から厳選な審査により小中高等学校の入賞者が決定しました。

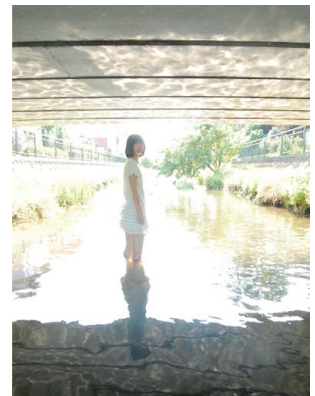
表彰式は、12 月 18 日に関東地方整備局に於いて実施し、小中高校生の部門別入賞者（金賞 各 1 名、銀賞 各 3 名、銅賞 各 5 名）と学校賞 10 校を表彰しました。

多くの素晴らしい作品のご応募ありがとうございました。



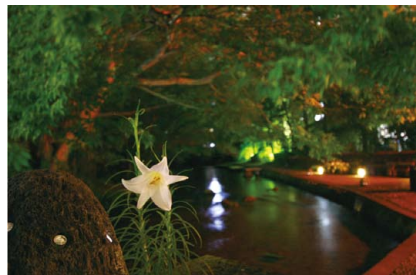
### 小学校の部：金賞

「スカイツリーとカモと一緒に」  
原 涼楓  
(千葉県 日出学園小学校 3 年)



### 高等学校の部：金賞

「光におぼれる」  
安藤 恭子  
(東京都 都立工芸高等学校 3 年)



### 中学校の部 金賞

「I'm beautiful?」服部 夢海 (静岡県 裾野市立東中学校 2 年)

(担当：東京事務所)

## 報告事項 2 (河川環境学習関係)

### 1. 「第9回 プロジェクトWET ファシリテーター講習会」を開催

本講習会の結果、ファシリテーターは全国で 210 名となりました。

#### 講習会概要

- (1) 開催日時：平成 22 年 10 月 2 日（土）～ 3 日（日）
- (2) 開催場所：名城大学名駅サテライト  
(愛知県名古屋市)
- (3) 講 師：プロジェクト WET ジャパン

コーディネーター 宮尾 博一



ファシリテーター 田中 住幸  
ファシリテーター 中田 都

(4) 受講人数:19名(フォローアップ参加者6名を含む)

### 講習会の様子

当財団は、平成15年度から「プロジェクト WET ジャパン」として、子どもたちが水について楽しく学び、考えるようにつくられた教育プログラムである「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」の普及・展開を図っています。

今回第9回目となるファシリテーター講習会は、久々に事務局のある関東を離れての開催でした。

共同講師には、平成21年度に約1年かけて取り組んできました「新アクティビティ集」編集・発刊ワーキンググループでご協力いただいた北海道の田中住幸氏、福井県の中田都氏をお招きしました。田中住幸氏は「新アクティビティ集」編集・発刊ワーキンググループの「防災チーム」を、中田都氏は「水管理チーム」をご担当された関係もあり、今回の講習会では「新アクティビティ集」を中心としたアクティビティを担当いただきました。

また、これまであまり使われていないと思われるアクティビティをメニューに取り入れ、オリジナリティあふれたアレンジを加えて実施しました。

意見交換の場では、低学年向けにアクティビティを実施する際の注意点や工夫すべき点、学校教育への普及方法、ネットワーク作りや実践の場をいかに確保するかといった事など様々な意見が出されました。

名古屋での開催ということもあり、特にこの中部ブロックにおいて、今後プロジェクト WET 等を通じた水に関する教育活動の普及を一緒に行うためのネットワークが更に広がったことが大変大きな収穫でした。



### 実施アクティビティの例「みんなの水」

農家やエネルギー会社、工場等の水使用者となって、スポンジで水源(バケツ)から水を吸い上げます。汚れを排出したり、水を吸い上げすぎたりする過程で、シミュレーションを行いながら水は共有のものであることを学びます。

(担当:研究第一部河川環境教育班)

## 2.「第10回 川に学ぶ体験活動全国大会 inかごんま」に参加

「川に学ぶ」社会をめざすための取り組みの一環として、子どもたちや人々を安全に川に誘う「川の指導者」の育成を行う「川に学ぶ体験活動協議会(RAC)」が、平成12年9月に設立されました。

平成13年度からは、全国各地を持ち回りで、RAC加盟団体や河川管理者、関係行政関係者等が一堂に会し、川に関わるさまざまな活動の事例発表を通して、情報交換や交流を行う「川に学ぶ体験活動全国大会」を開催しています。

10回目を迎える本年度は、「川に学ぶ体験活動全国大会 in かごんま」として、鹿児島県薩摩川内市の鹿児島純心女子大学「江角記念ホール」を主会場として、平成22年10月9日(土)～11日(月)に開催され、全国各地から約200名余りが参加しました。

◇1日目(10月9日) 会場:江角記念ホール他

※第10回大会記念プレイベント(9:30～11:30)

I かわまちづくり流域首長サミット

II 「川の環境学習と安全対策」円卓会議

・開会式

・基調講演「川に学ぶ体験活動の10年とこれから」

・体験プログラム

①川の体験活動安全講習コース

②鶴田ダムと川内川改修見学コース

③川内川からはじまる宇宙の旅コース

④川内川支川 秋の清浦溪谷を楽しむ沢登り体験コース

⑤ラムサール条約登録湿地「藺牟田池」と外来魚つり体験コース

・交流会

◇2日目(10月10日) 会場:江角記念ホール他

・RACの「いま」と「これから」

・全国川に学ぶ体験活動事例発表:分科会

①「学校連携(学校との連携)」分科会  
発表:5団体

②「ネットワーク活動の推進」分科会  
発表:5団体

③「河川学習・活動拠点」分科会  
発表:5団体

・全体意見交換会

・閉会式

※エクスカッション(10月10日～10月11日)

①川内川上流 えびの市秋の高原池めぐりコース

②川内川中流 焼酎発祥の地「伊佐」曾木の滝、産業遺産コース

## ③川内川中流 さつま町椎込狭窄部川下りコース



エクスカージョン（さつま町川下り）

(担当：研究第一部河川環境教育班)



「プロジェクトWET」展示ブースの様子

(担当：研究第一部河川環境教育班)

### 3. COP10発表・交流事業「地球いきもの EXPOinモリコロパーク」に出典

#### 1. 全体概要

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）<sup>\*</sup>にあわせて開催される市民の方々が楽しく学び、参加、交流できる普及啓発イベントにおいて、環境教育プログラムであるプロジェクトWETの普及活動及び河川環境管理財団の取り組みの広報PRを実施しました。

本イベントではプロジェクト・ワイルドのプログラムを普及・展開している（財）公園緑地管理財団とプロジェクトWETのプログラムを扱っている（財）河川環境管理財団とが共同出展しました（「全国一斉WILD&WET開催DAY」の一環）。

※COP10：「COP（Conference of the Parties）」とは、国際条約を結んだ国が集まる会議（締約国会議）のこと。

日 程：2010年10月23日（土）-24日（日）  
両日とも10：00～16：00

場 所：モリコロパーク  
（愛・地球博記念公園 大芝生広場）

主 催：生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

#### 2. 実施概要

##### (1) 環境教育の説明展示

パンフレットやDVD映像の放映、地球上の水に関連したクイズ展示、ライフジャケット等の展示などプロジェクトWET、河川環境管理財団の環境教育の取り組みについて訪れた人々に紹介しました。

##### (2) アクティビティ体験（待ち受け型）

10分ほどで体験できる簡易型アクティビティを実施し、訪れた人に楽しい学びを体験いただきました

##### (3) ペーパークラフトづくり

魚のペーパークラフト作り（魚の生態等に関するクイズも合わせて実施）

### 4. 平成22年度かっぱ天国大募集の応募及び受賞結果

平成22年6月下旬から募集を開始した、「平成22年度 かっぱ天国大募集」については、9月末に応募を締め切ったところ、全国各地から35か所（写真74枚）の応募があり、「子どもの水辺サポートセンター賞」以下各賞の受賞者が決定しました。

#### 【受賞数】

「子どもの水辺サポートセンター賞」	1名
「水辺の元気賞」	3名
「水辺の学び賞」	3名
「水辺の笑顔賞」	3名
「団体賞」	該当なし

#### 【子どもの水辺サポートセンター賞 受賞者】

神奈川県 山崎 穂垂さん



埼玉県 寄居町カワセミ河原（荒川）

埼玉県水辺の生き物ふれあい週間で水辺の安全教室に参加した一コマです。とても暑い夏の1日を荒川で遊びました。

その他の受賞写真等については、マップ上に写真と場所の情報を合わせて掲載しております。（以下のリンク先で閲覧することができます。）



<http://www.mizube-support-center.org/info/2010/kaxtupa03.html>

(担当：研究第一部河川環境教育班)

## 5. プロジェクトWETエドゥケーター講習会 in岐阜

平成 22 年 11 月 6 日、国営木曾三川公園自然発見館(岐阜県各務原市)におきまして、一般公募等により応募のあった 9 名を対象として、エドゥケーター講習会を開催しました。

参加者の多くは、日頃から業務または地域において環境教育に関連した活動をされており、今後に生かしていきたい等の声が聞かれました。各方面における皆様方のご活躍を期待しています。

なおこの度の講習会は、名古屋事務所が木曾三川公園マネジメント共同体として管理運営する国営木曾三川公園における自主事業として開催しました。



講習会の様子



集合写真

(担当：名古屋事務所)

## 6. Eボートで淀川下り！

平成 22 年 11 月 28 日(日)、川と親しみ、川と向き合うきっかけとして、一般募集 25 名の方々と E ボートでの淀川下りを行いました。

RAC インストラクターの指導のもとに、京都府八幡市の淀川河川公園 背割堤地区から「くらわんか舟」で有名な枚方地区までの約 10km の E ボートでの川下りを体験していただきました。参加された方から、また開催してほしいとの声も頂きました。



(担当：大阪事務所)

## 出版案内

### 1. 「川を活かした体験型学習プログラム」の発刊

先の河川環境管理財団ニュース No.37 号でも予告しましたとおり、この度、「川を活かした体験型学習プログラム」を発刊する予定です。本書は、小学生が川をフィールドとして、安全に楽しく学び遊ぶさまざまな体験活動の指導書として、小学校の学校現場でも利用できるように平成 23 年度から完全実施される学習指導要領にも対応したものとしてまとめられています。また、本書の編集にあたっては、角屋重樹広島大学大学院教育学研究科教授(現在、文部科学省国立教育施策研究所教育課程研究センター基礎研究部長)を座長とし、小学校長等の教

育関係者で構成した「川を活かした体験型学習プログラムの開発に関する研究会」において監修していただきました。

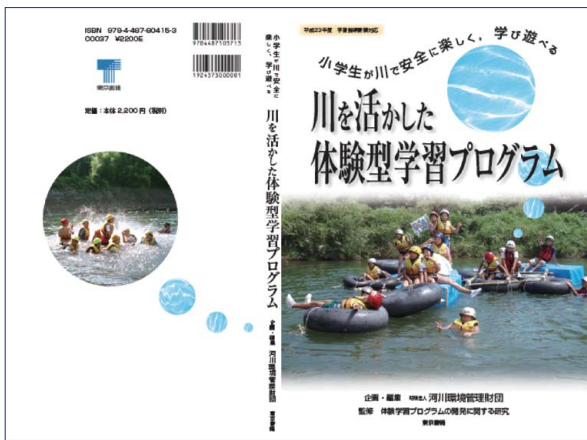
内容は、各教科に関連した川を活かした体験学習の実践例として、体験活動を実践した小学校の事例を紹介し、さらに、実際に授業などの学校現場での実践に参考となるよう、パッケージ化した 6 つの分野で 32 のプログラムを掲載しています。

本書の構成は、以下のとおりとなっています。

- 序章 水辺体験学習と育成される力
- 1 章 体験学習としての川の魅力
- 2 章 各教科に関連した川を活かした体験学習の実践例 (小学校 12 校)

- 3章 川を活かした体験型学習プログラム
  - 3-1 川や水を感じる
  - 3-2 川や水辺の環境を調べる
  - 3-3 川や水辺の生き物を調べる
  - 3-4 環境保全・改善について
  - 3-5 水害や土砂災害等の防災について
  - 3-6 川と地域の歴史や文化について
- 4章 体験型学習の支援体制等の関連資料

「川に学ぶ」社会をめざすためにも、本書を活用し次世代を担う子どもたちが、川をフィールドとして安全に楽しく学び遊ぶ体験の機会がより多くなることを期待しています。



(担当：研究第一部河川環境教育班)

## 2. 「水辺の安全ハンドブック(改訂版)」の発刊

当財団は、川や水辺を活かした環境教育の促進を図る

ためさまざまな取り組みを行っていますが、その中でも、安全な河川利用を最優先のテーマとして活動しています。

平成 10 年の「『川に学ぶ』社会をめざして」の報告を受け、精力的に河川環境教育の普及・展開に取り組み始めた平成 11 年に、玄倉川での大きな水難事故の発生を契機とし、一般の河川利用者に対し川に内在するさまざまな危険を認識し、必要な準備や心構えについてまとめた「水辺の安全ハンドブック～川を知る。川を楽しむ～」を作成し、全国の関係機関や市民団体等に提供しました。

平成 16 年には、一部改訂と増刷を行い、平成 19 年度には、内容を充実した全面改訂を行い、全国の学校、関係行政機関、市民団体等に配布し、多くの皆さんに啓発資料として体験活動やイベント等で活用していただきました。

この度、さらに内容の見直しと充実を図り、川での体験活動を計画・実践する際のマニュアルとして、安全な河川利用と水難事故防止の啓発資料として活用していただくために、改訂版を作成し、発刊する予定です。

なお、これまでは無償配布とさせていきましたが、この度の改訂版「水辺の安全ハンドブック～川を知る。川を楽しむ～」は、1 冊 100 円で販売させていただく予定としております。



(担当：研究第一部河川環境教育班)

## 公園・施設管理コーナー

### 1. 第 16 回 淀川河川公園リレーマラソン大会

「42.195km リレーマラソン大会」が 11 月 21 日(日)に開催されました。フルマラソンを 4～10 人のランナーで周回するもので優勝チームは「池田ランナーズハイのぞみ」で 2 時間 10 分 07 秒でした。今年度は、会場を太間地区から枚方地区へ変更し、昨年を大幅に上回る 240 チームの参加があり大盛況となりました(主催 42.195km リレーマラソン協会 共催 (財)河川環境管理財団)。

(担当：大阪事務所)





# 河川整備基金コーナー

## 1. 「河川整備基金助成事業成果発表会」の開催

第 17 回河川整備基金助成事業成果発表会が下記のとおり開催されました。

期 日 平成 22 年 10 月 27 日 (水) ~ 10 月 28 日 (木)

場 所 東京虎ノ門「発明会館館」

参加者 27 日 115 名、28 日 77 名

この発表会は、前年度の助成事業成果報告の中から、助成事業評価委員会で「成果を広く周知し活用を図っていくべきもの」と評価されたものについて、成果の社会還元を目的に参加費無料で毎年開催しているものです。

発表会では、現地を含む研究機関における最新の研究成果が発表され、今回も活発な意見交換が行われました。発表会の課題については、(財)河川環境管理財団のホー

ムページで公開しておりますのでご覧ください。

(担当：研究第一部基金班)

## 2. 「平成 22 年度河川整備基金助成事業優秀成果」を公表

河川整備基金助成事業成果発表会における発表課題のほか、「成果を広く周知し活用を図っていくべきもの」として評価された優秀課題は、下表のとおりです。

優秀成果に該当する皆様及び所属機関の長の皆様には、平成 22 年 9 月 7 日付け文書により優秀成果に選定されたことを通知しました。優秀課題については、第 17 回河川整備基金助成事業成果発表会の概要集に研究成果の概要を掲載すると共に、(財)河川環境管理財団のホームページにおいても公表しました。

### ○優秀成果報告書（調査・試験・研究部門）一覧

#### 1. 防災・危機管理など川と地域社会の係わりに関する調査・研究

助成番号	助成事業名	所 属	氏 名	◎は第 17 回 成果発表会 発表課題
21-1213-004	侵食により破壊される樹林帯と安定樹林帯の分類に基づく流木発生・捕捉指標に関する研究	埼玉大学大学院 理工学研究科	田中 規夫	◎
21-1213-001	ダムの洪水調節機能向上を目指した降雨・融雪予測情報の活用について	室蘭工業大学大学院工学研究科	中津川 誠	◎
21-1217-004	「市民との協働」を通じた環境用水の創出とその利活用に関する事業モデル構築の研究	滋賀県立大学	秋山 道雄	◎
21-1216-006	佐賀平野東部における「流域治水」の発掘と復元に関する研究	佐賀大学	岸原 信義	◎
21-1213-003	宿泊施設経営者の参画による山間観光地の豪雨災害避難システムの構築	群馬大学大学院 工学研究科	清水 義彦	
21-1215-011	川での福祉・医療（教育）の増進に関する調査研究	特定非営利活動法人 川での福祉・医療・教育研究所	吉川 勝秀	
21-1212-012	ADCP(超音波ドップラー流速計)を用いた洪水流況と河床変動の同時計測技術の構築に関する基礎的研究	高知工業高等専門学校	岡田 将治	
21-1216-001	疎導要書にみる成富兵庫の治水評価に関する調査	特定非営利活動法人 風土工学 デザイン研究所	田村 喜子	

#### 2. 水環境に関する調査・研究

助成番号	助成事業名	所 属	氏 名	◎は第 17 回 成果発表会 発表課題
21-1211-019	河川流域における抗生物質および抗ウイルス剤の存在実態とその水生生物に対する影響評価	京都大学大学院工学研究科	山下 尚之	◎
21-1211-027	河川環境保全のための流域農業地域の耕作放棄や田面管理が汚濁負荷流出に及ぼす影響の定量化に関する研究	鳥取大学大学院工学研究科	細井 由彦	
21-1211-012	三河湾湾奥への非特定汚染源からの降雨時栄養塩流出負荷特性	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科建築・都市シ ステム学系	井上 隆信	◎
21-1211-003	担体による都市河川の藻類抑制技術	滋賀県琵琶湖環境部 下水道課	岡安 祐司	◎

助成番号	助成事業名	所 属	氏 名	◎は第17回 成果発表会 発表課題
21-1211-005	河川及び湖沼の水圏生態系における紫外線吸収剤の汚染状況と食物網内の生物蓄積性に関する研究	埼玉県環境科学国際センター	亀田 豊	◎
21-1211-002	流域と湖沼でのケイ素動態の長期変化と生態系影響：流域不浸透面積率と湖沼収支に注目して	筑波大学大学院 生命環境科学研究科	福島 武彦	
21-1211-008	品木ダムの堆積環境の解析と浚渫物土捨場による環境負荷の見積	上智大学 理工学部	木川田喜一	
21-1211-013	従来の流域試験研究における森林の影響の再検証とその水資源対策への活用	名古屋大学大学院 生命農学研究科	田中 隆文	
21-1211-016	琵琶湖流入主要河川（安曇川、市街地河川）の降雨時を含めた汚濁負荷量の詳細把握	滋賀県琵琶湖環境 科学研究センター	内藤 正明	

### 3. 川の生態環境に関する調査・研究

助成番号	助成事業名	所 属	氏 名	◎は第17回 成果発表会 発表課題
21-1212-013	アユの生息場保全と治水効果を考慮した川づくりの提案	九州工業大学大学院	鬼束 幸樹	◎
21-1215-012	底生生物の生息基盤となる干潟微小環境の修復法の開発に関する研究	特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合 (WIJ)	辻井 達一	◎
21-1215-013	暖温帯における河畔林構成樹木の分布特性の解明と河畔林自然再生手法の開発	独立行政法人森林総合研究所 植物生態研究領域	比嘉 基紀	◎
21-1215-021	カワウによる流域森林の衰退に対する保全管理方策の検討	滋賀県立琵琶湖博物館	亀田佳代子	◎
21-1215-006	アブラハヤの季節的移動分散行動と河川内の物質利用均質化機構の検討	宮城教育大学 理科教育講座	棟方 有宗	
21-1215-007	DNA 多型マーカーを用いた河川水生昆虫の流域内地域間交流の評価	東北大学大学院工学研究科	風間 聡	
21-1215-020	河川における落葉の堆積・分解過程の解明と自然再生への応用	東京工業大学大学院 理工学研究科	吉村 千洋	
21-1215-010	河川敷のアレチウリ・クズ群落の生育土壌、栄養塩源及び遷移過程の解明と管理指針の作成	埼玉大学大学院理工学研究科	浅枝 隆	
21-1215-024	トビケラ目を中心とした河川昆虫の生活史・摂食生態特性の基本情報統合とデータベース構築	大阪府立大学大学院	谷田 一三	

※検索キーワードに助成番号を入力すると報告書本文が閲覧できます。

⇒河川整備基金助成事業成果報告書 全文検索 (<http://www.kasen.or.jp/seibikikin/admit.asp>)

(担当：研究第一部 基金班)

### 3. 「平成 23 年度河川整備基金助成事業の申請受付」終了

～申請件数は昨年度よりも増大し 756 件となりました～  
河川整備基金助成事業の募集は、11月30日に締めきりました。

平成 23 年度助成事業の決定は、平成 23 年 3 月になる見込みです。応募された方全員に郵送で採否の通知をします。

平成 22 年度から調査・試験・研究部門の一般的助成の採択限度額が 200 万円に引き上げられたこと等により、調査部門の申請件数が以前に比べて大幅に増加しております。特に、昨年度同様、調査部門では「生態系」の分野の件数が多くなっています。

(担当：研究第一部 基金班)

### 4. 「河川技術者研修会（北海道地方、四国地方）」の開催

この研修会は、河川関係業務を担当する国土交通省、都道府県、市町村等の職員に対して、今後の事業実施に必要な実務的な知識を習得してもらうことにより、職員の資質の向上を図り、河川計画・管理業務等、河川事業の強化・充実に役立てることを目的としています。

本研修会では、各地域の抱える課題も積極的に取り入れて、参加者及び参加機関に負担がかからないよう地方の都市において開催するものです。11月には、北海道河川技術研修会が札幌市で、四国河川技術研修会が高松市で開催されました。



**<北海道河川技術者研修会>**

テーマ これからの河川管理  
期 日 平成 22年 11月 9日～10日  
会 場 札幌市教育文化会館  
参加者 9日 145名 10日 142名

**<四国河川技術者研修会>**

テーマ これからの河川管理を考える  
期 日 平成 22年 11月 29日～30日  
会 場 高松サンポートホール  
参加者 29日 202名 30日 193名

なお、平成 22年度は、近畿地方、中国地方においても研修会を開催する予定です。

**・近畿河川技術者研修会**

テーマ 地球温暖化に伴う気候変化への対応  
期 日 平成 23年 1月 20日～21日  
会 場 大阪市内

**・中国河川技術者研修会**

テーマ 調整中  
期 日 平成 23年 2月 2日～3日  
会 場 広島市内

(担当：研究第一部基金班)

## お知らせ・募集

### 1. 「第10回プロジェクトWETファシリテーター講習会」の開催予定

現在、国内では5,000名余の方がプロジェクトWETの「エデュケーター(一般指導者)」の資格を取得し、学校や様々な活動の場においてプロジェクトWETのアクティビティを子どもたちに実践されております。

このエデュケーターを養成するとともに、プロジェクトWETの普及ならびにプロジェクトWETを通じた水に関する環境教育を推進する人が「ファシリテーター(上級指導者)」です(現在210名が登録)。

本年度ファシリテーター養成講習会は、2回開催することとなり、10月に行われた第9回講習会に引き続き平成23年1月15日(土)～16日(日)の2日間、当財団内で開催する予定です。

(担当：研究第一部河川環境教育班)

### 2. 「平成22年度 川に学ぶ全国事例発表会」の開催案内

当財団の子どもの水辺サポートセンターでは、子どもたちの川や水辺を活用した環境学習や体験活動を推進する取り組みの一環として、全国の学校や市民団体等が行う活動を支援しています。

その1つとして、小・中・高等学校が総合的な学習の時間等で実践している事例及び市民団体等が子どもたちを対象として活動している事例等の中から他の模範となるような事例を発表していただく「川に学ぶ全国事例発表会」を毎年度開催し、多くの関係者の情報提供・収集・交換・交流の場となり、川を活用したさまざまな体験活動の普及・展開に向けた貴重な機会を提供するものとなっています。

川を活用したさまざまな活動に興味関心を持つ方、活動を実践しているものの多くの課題や問題点を感じている学校関係者、市民団体の指導者、関係機関等の担当者の皆さんには、今後の活動に大変参考になる内容となっております。皆さんの参加をお待ちしております。

第9回目となる平成22年度は、下記の日程と内容で開催します。

**「平成22年度 川に学ぶ全国事例発表会」の開催概要**

- ・日 時：平成23年1月28日(金)  
10：00～17：00(予定)
- ・会 場：(財)河川環境管理財団 大会議室
- ・会場最寄駅：地下鉄日比谷線小伝馬町駅(徒歩1分)
- ・定 員：80名(申込み先着順、参加費無料)
- ・主 催：(財)河川環境管理財団  
子どもの水辺サポートセンター
- ・後 援：国土交通省、文部科学省、環境省
- ・問合せ先：(財)河川環境管理財団 研究第一部又は子どもの水辺サポートセンター  
TEL：03-5847-8303 FAX：03-5847-8309

**「平成22年度 川に学ぶ全国事例発表会 プログラム(案)」**

- 10：00 開会 主催者挨拶
- 10：05 来賓挨拶
  - ・国土交通省河川局河川環境課
- 10：10 川に学ぶ環境学習・体験活動の支援について
  - ・(財)河川環境管理財団 研究第一部
  - 川に学ぶ体験活動協議会の活動について
    - ・NPO法人川に学ぶ体験活動協議会
- 11：00 関係省庁等の取り組みについて
  - ・国土交通省河川局河川環境課
  - ・文部科学省スポーツ・青少年局青少年課
  - ・環境省総合環境政策局環境教育推進室

12:00 休憩・昼食  
 13:00 事例発表  
 15:00～15:10 休憩  
 15:10 事例発表  
 17:10 終了 挨拶

※プログラムの内容は、変更する場合があります。  
 (担当：研究第一部河川環境教育班)

### 3. 平成22年度 プロジェクトWET & ワイルド 合同全国大会

昨年度プロジェクトWETとしては初めて全国大会を姉妹プログラムである「プロジェクト・ワイルド\*」と合同で開催致しました。

今年度も更なるネットワークの構築・ノウハウの共有を目指して、プロジェクトWETとプロジェクト・ワイルドのエducator及びファシリテーターを対象とした合同全国大会を開催することで、準備を進めています。

※生き物を題材とした環境教育プログラム  
 (財)公園緑地管理財団 主管

詳細な内容については、決まり次第プロジェクトWETのホームページなどでお知らせする予定です。

日 時：平成23年2月5日(土)～6日(日)2日間  
 開催場所：ボーイスカウト会館(東京都三鷹市)  
 対 象：プロジェクトWETのエducator及び  
 ファシリテーター  
 プロジェクト・ワイルドのエducator及び  
 ファシリテーター



平成21年度 プロジェクトWET & ワイルド合同全国大会の様子

(担当：研究第一部河川環境教育班)

### 4. 「第9回(財)河川環境管理財団 研究発表会」のお知らせ

当財団の研究成果を広く周知するために、下記のとおり研究発表会を開催します。詳細の案内・参加申し込みは、財団ニュース第39号(平成23年5月頃発行予定)および当財団ホームページ(平成23年5月頃掲載予定)にてお知らせいたします。

期日：平成23年7月21日(木)13～18時(予定)  
 場所：砂防会館 別館1階「淀・信濃」  
 千代田区平河町2-7-5 TEL 03-3261-8386(代表)  
 交通：地下鉄永田町駅(有楽町線・半蔵門線・南北線)  
 4番出口徒歩1分  
 問い合わせ 企画調整部 江幡・桑原  
 (担当：企画調整部)

編集発行  財団法人 河川環境管理財団

編集事務局 企画調整部 担当：朝堀 E-mail:asahori-ya@kasen.or.jp  
 江幡 E-mail:ebata-s@kasen.or.jp

本 部 〒103-0001  
 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9  
 住友生命日本橋小伝馬町ビル(2F,3F)  
<http://www.kasen.or.jp/>  
 E-mail:info@kasen.or.jp

総務部 TEL 03-5847-8301 FAX 03-5847-8308  
 企画調整部 TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308  
 研究第一部 TEL 03-5847-8303 FAX 03-5847-8309  
 研究第二部 TEL 03-5847-8304 FAX 03-5847-8309  
 研究第三部 TEL 03-5847-8305 FAX 03-5847-8310  
 研究第四部 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310  
 東京事務所 TEL 03-5847-8306 FAX 03-5847-8310  
 子どもの水辺サポートセンター  
 TEL 03-5847-8307 FAX 03-5847-8314  
<http://www.mizube-support-center.org/>  
 E-mail:msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061  
 札幌市中央区南1条西7丁目16-2(岩倉ビル)  
 TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953  
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>  
 E-mail:info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002  
 名古屋市中村区名駅4-3-10  
 TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627  
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>  
 E-mail:info-n@nagoya.kasen.or.jp

近畿事務所 〒540-6591  
 大阪市中央区大手前1-7-31(OMMビル13F)  
 TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118  
 E-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096  
 大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)  
 TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095  
<http://www2.kasen.or.jp/>  
 E-mail:kohen@osakaj.kasen.or.jp